

第2回町田市スポーツ推進審議会 議事要旨

日時 2023年7月25日(火) 18:30~20:30

場所 町田市役所 10階 10-2会議室

出席者

川崎 登志喜	委員(会長)	玉川大学教育学部 教授
宮崎 光次	委員(職務代理)	桜美林大学健康福祉学群 教授
永吉 英記	委員	国士舘大学体育学部 教授
西井 義昭	委員	一般財団法人 町田市体育協会 副理事長
小川 由起子	委員	町田市スポーツ推進委員
水野 洋子	委員	NPO 法人スポーツ塾 J.VIC 理事長
渋谷 俊彦	委員	町田商工会議所 青年部会長
江口 寛征	委員	社会福祉法人合掌苑 特別養護老人ホーム合掌苑桂寮施設長
小八重 眞弓	委員	市民委員
川口 圭介	委員	市民委員
薄井 忍	委員	南中学校校長

欠席者

なし

事務局

文化スポーツ振興部スポーツ振興課長 高梨 光之
文化スポーツ振興部スポーツ振興課担当係長 荒木 康伸
文化スポーツ振興部スポーツ振興課担当係長 地寄 一敏
文化スポーツ振興部スポーツ振興課担当係長 須田 恵美子
文化スポーツ振興部スポーツ振興課担当係長 十河 真広
文化スポーツ振興部スポーツ振興課主任 積 さゆり

傍聴者

0名

議事

1. 開会
2. 議事
 - (1) 基本目標及び基本施策における現状課題の整理
 - (2) 後期アクションプランの方向性や着眼点の意見交換
3. 事務局から
4. 閉会

<資料>

資料1 後期アクションプラン（2024～2028年度）策定に向けた現状と課題の整理

資料2 町田市スポーツ推進計画 19-28（概要版）

議事要旨

1. 開会
2. 議事
 - (1) 基本目標及び基本施策における現状課題の整理
 - (2) 後期アクションプランの方向性や着眼点の意見交換

事務局より配布資料について説明を行った。

川崎会長 （1）子どものスポーツ推進について、何かご意見はあるか。
子どもがスポーツを好きになる具体的な方策や、着眼点などを聞きたい。市で予算がつかないということもあるので、できるだけ工夫をしながら、推進計画の目標に向け、あと5年でもう一步進めるためのアイデアやキーワードをいただきたい。

薄井委員 中学校部活動は衰退してきていると感じる。専門的な指導者が減少しており、スポーツにかかわらない子どもが増加している。今後、部活動の地域移行化に沿って、学校の区分にとらわれない、子どもが学校に集まって運動やスポーツを行っていく場所や機会が必要であると思う。このような取り組みが、スポーツに関わる子どもを増やすことに繋がると考える。また、小学校では、放課後の過ごし方が重要と考える。放課後に運動ができる場所の案内として、スポーツマップを作成しているが、マップだけではなく、例えば、そこに行けばできることの提示やスポーツボランティアの方が現地にいて野球やサッカーを教えることができれば、子どもたちが遊びながらスポーツに携わることができると考える。スポーツに携わっていく人が大切で、大人がどのように関わっていくかが大切と感じる。経済的な検討事項もあると思うので、商工会議所からのご意見をいただいて、意欲的な方が子どもたちのスポーツの場にどんどん加わっていただけたらと思う。

小川委員 まちとものような活動の場に出てきていない子どもがスポーツに参加できるようになると良い。若い方にボランティアとして関わってもらえると年齢的に子どもに近いため、

親しみやすく、良い効果があると思う。遊びからきっかけをつくり、スポーツが好きになってくれると良い。

- 川崎会長 町田市の小中学校には、学生ボランティアは入ってきているか。
- 薄井委員 学生ボランティアは、学校によっては集めている学校もあると思うが、組織的にボランティアの学生がいるという情報はなかなか入ってこない。
- 水野委員 子どものスポーツを推進するために、小学校の開放団体として、一つのスポーツに特化したクラブではなく、まちとの活動のように誰でも入れて、辞めるのも自由、スポーツ安全保険だけ加入してもらうというような運用ができればよいと思う。親の当番などもなく、遊びを中心にした陸上運動全般を行うクラブとして小学校で活動し、スポーツの習慣が付くよう低学年を対象とする。また、指導者はメインで最低1人、スポーツ指導者資格か教職を有する人材が好ましく、その他はまちとのボランティアスタッフがサポートする形で構成することで連携を図ることができればと考える。【←審議会後にメールで補足説明をいただいたため転記しています】また、小学校の施設を中学生も利用することができるなど、地域で連携して取り組んでいけると良いと感じる。
- 西井委員 コロナの影響で、スポーツや運動の機会も減っている中、子どもたちも大変な状況であると思う。そういった中で、町田市がスポーツに関する会議を行い、子どもの運動やスポーツについて議論していることはとても良いことである。
- 川崎会長 大学でも、活動の機会が制限されてきたため、イベントなどが全くなかったのにつながりもなく、体験や経験がないまま卒業する状況などもある。
スポーツが嫌いな子どもを減少させるために、スポーツが苦手だという意識を持っている子たちが、授業以外でスポーツに触れ合う機会、体育の授業以外で何か子どもたちが一歩前に出てくるような企画が考えられると良い。
- 永吉委員 子どものスポーツ嫌い、体育嫌いに関しては、特に女の子が多い。あとは、小学校から中学校に上がるときにスポーツをやめてしまうことが多い。スポーツは競技性があり、競わないといけないという部分がでてくるため、苦手意識を持つ子どもも出てくる。小学校入学前や小学校低学年の時期では、家族や親子で、あるいは地域で、運動や遊びということをキーワードに、体を動かす楽しさなどを体験できると良い。運動や遊びを通じて、少しスポーツにつながり、体を動かす楽しさみたいなものを提供できる取組がキーワードの1つとして挙げられる。
- 川崎会長 競技性をなくしたスポーツの体験をし、それもスポーツだと理解していくことが大切であると感じる。
親子での体験という話も出てきたが、(2)働き盛り世代・子育て世代のスポーツ推進について、何かご意見はあるか。
- 西井委員 子どもだけではなく、家族、親という視点も重要であると思う。実際にスポーツ観戦をするなどの体験をすることも大切であると思う。親がそういう姿勢を持っていなければ、子どももスポーツを行ったり、観戦したりすることはないと感じる。
- 川口委員 子どもの時から地元のスポーツチームなどの試合観戦や応援をすることで、地域への愛着などもわいて良いと感じる。FC町田ゼルビアは1つの突破口になるのではないかとも思う。子どもの時からゼルビアに親しむことで、町田市に対する愛着にもつながるように思う。また、苦手な子どもでもスポーツができる機会があると良いと思う。球技が苦手

でも水泳は得意という子がいるように、苦手意識が先行することなく、多くのスポーツに触れる機会があると良いと思う。

渋谷委員 企業と連携した働き盛り世代のスポーツ参画を進めるために、スポーツを行わなかった理由として挙げられている「機会がなかった」「仕事や家事・育児が忙しく時間がなかった」の解決を目指す必要があると考える。そのためには仕事をしている（会社にいる）時間帯にスポーツに参加する機会を増やすことが有効である。企業の理解や協力を得る必要があるため、経済団体に広く支援を呼びかける必要がある。そのためには、町田商工会議所をはじめ、町田法人会などを当初から巻き込み、共催・後援・協賛を得ることができれば、会員企業の経営者層に直接、取り組みの意義や効果を訴えることができる。結果、各社の役職員が、業務の一環として、スポーツイベントに参加しやすくなると考える。

川崎会長
永吉委員 （3）高齢者のスポーツ推進について、何かご意見はあるか。
高齢者のスポーツとしては、健康づくりが1つの目的になると思う。フレイル予防ということを念頭に、高齢者のスポーツを後押ししていくことが必要であると思う。また、仕事を定年退職した後の比較的時間にゆとりを持てる年齢に対して、生活が大きく変わるタイミングで何かスポーツや健康づくりに関連するアプローチができると、ゆくゆくは高齢者のスポーツ推進につながるのではないかと考える。また、30代から40代の働き盛り世代のスポーツ推進に話は戻るが、女性と男性では、興味のある運動やスポーツが異なっていることも踏まえて、それぞれの興味に合った取組を提供していけると良いのではないかと考える。具体的には、全国統計の30代40代のスポーツ実施種目の中で、女性はヨガやストレッチなどの体操系、男性は筋トレというのが多い。また、40～50歳代については、ウォーキングやジョギングをする人が多い。公園や家の周辺、通勤の道などで行えるウォーキングとジョギングは、働き盛り世代、シニア層、高齢者に対してキーワードとなるように感じる。

西井委員 障がい者のスポーツ推進は盛んに行われている。ニュースを見ている中で、オリンピックのレガシーを残していくことが重視されており、2025年には世界陸上、デフリンピックがあるということを知った。

水野委員 高齢者はスマホで検索したり、動画を見たりということに対応できていない人も多くいるため、改めて紙媒体で、家でできる運動やスポーツなどを紹介することも必要ではないか。スマホを触らない世代には、やはり紙媒体で絵や写真などを使用した周知、情報発信などが大事だと思う。

小川委員 障がい児のスポーツ教室事業があり、そこに参加していた子どもたちの年齢層が上がり、幅広くなってきている。最近はコロナで活動ができていなかったが再開している。指導員を一般から募って活動しているが、こういった場にも、学生などボランティアの人が関わって活動を行えると良い。

川崎会長 教室に参加する子どもたちの入れ替わりなどはどういう状況か。

小川委員 新しい小学生の子も入ってきているが、やはり、障がい者のスポーツをする機会と場所が少ないという現状がある。保護者の方も子どもが大きくなって一緒にそこでやってもらいたいという思いがあるようで、幅広い年齢層が集まって行っている。

川崎会長 周知については、何か工夫されているか。

- 小川委員 障がい福祉課が周知を行い、募集をしている。
- 江口委員 高齢者の70歳以上といっても一括りにするのは難しく、健康状態や体力面は幅が広い
ため、どこに焦点を当てるかによって、取組の内容も異なると思う。仕事を引退した直後
の方もいれば、支援が必要になり在宅介護・施設介護を受けている方など様々であり、
車椅子での生活の方もいる。施設では、車椅子の方でも参加可能な風船バレーボールを
行っている人生の最後まで、スポーツを楽しむことができる取組なども取り入れられる
と良いと感じる。
- 水野委員 障がい者スポーツに取り組む子どもたちに対して、各協会への選手登録や大会エントリ
ーなどの情報を提供することも重要ではないかと考える。ただやっている、という方も
多くいるので、目標を持って競技に取り組むことができるようになれば、励みになる
と思う。パラリンピックを目指すためのステップであったり、本格的にスポーツを行える
ような情報発信、サポートを行っていくことなどもあると良いのではないかと考える。
- 川崎会長 そういった情報提供を行っていくことは大事である。
まちだサポーターズの皆さんに対して、何か大きなイベントではなく、障がい者水泳教
室事業というような規模のボランティアをやってみませんかなどと、普段から行ってい
る活動にも参加を促すような情報発信もあるかもしれない。どうか？
- 小八重委員 それは確かにある。
イベント広場で、親子でボッチャの講習を行っていることがあった。小さなイベントを
行い、体験する機会を増やしていくことで、運動やスポーツに触れる機会がでてくるこ
とで、子どもや高齢者、お子さんの親御さんなど、みなさんが参加できるものになる
と思う。
- 小川委員 そういった場や機会が増えると、スポーツ推進委員としてもお手伝いができ、活動の場
や機会が増えていくと思う。
- 川崎会長 基本目標2については、団体自体をどう育てていくかということにも関わるが、基本目
標1の子ども、親子、高齢者、障がい者のスポーツ推進という活動する場と結びつきが
出てくる。【基本目標2】について、何かご意見はあるか。
- 小川委員 スポーツ推進委員で企画している「スポーツにチャレンジ！」は親子参加型で、年に5、
6回開催している。子どもにスポーツを好きになってほしいと思う親が子どもを連れて
参加する傾向にある。スポーツのきっかけづくりとして、親子で体験できる機会が増え
ると良い。この取り組みは、まちだサポーターズのみなさんにもご協力いただきながら、
サン町田旭体育館や市立総合体育館で実施している。参加機会を拡大するため、公民館
などの施設規模でも皆さまのお手伝いをいただきながら実施できるよう、検討できれば
と考えている。
- 川崎会長 まちだサポーターズの方たちは、部活動の指導を行いたいというような話やデータは出
ていないか。
- 事務局 そういった話やデータはない。
- 川崎会長 指導者のデータバンクというものは、町田市はあるのか。
- 事務局 町田市には存在していないが、東京都の方で小中学校の学校施設の方がアクセスできる
ような人材データバンクが存在している。登録フォームを見ていると、スポーツの人材
について、東京都の方で登録前に面接を行うことになっている。

- 薄井委員 外部指導員や部活動指導員としてデータはある。部活動の地域移行で指導を行う人は、コーチングの免許が必要になってくると考えられ、資格や免許の取得には講習受講料などの費用が発生してくる。地域移行で部活動に関わるとなると、資格や免許の壁が出てくる。
- 水野委員 町田市体育協会で、スポーツ指導者の資格を持っている人のリストのようなものはあるか。
- 西井委員 そういったものはない。競技によっては、ライセンスの区分けが細かく、複雑なことから一括で調べることができるようなリスト作成は難しいと考えている。
- 永吉委員 少し情報提供をすると、部活動の地域移行に関しては、大学でも動いており、研究室レベルや学会レベルで地域移行に向けた指導者養成を行っている状況。特に国としての全国的な統一が図れた指針などが出ていない中で、各自治体の状況にあわせて、各自治体で研修等を進めていくような流れが世田谷区などの大きい自治体で起こり始めている。町田市周辺の自治体での動きはあまりなく、部活動地域移行に伴う指導者の資格を提示して関わっている例はあまりない状態である。
- 渋谷委員 イベントの企画や運営は町田市担当部署や一部の有識者で十分に回すことができたとしても、市民の多くが「他人事」ではスポーツを支える人材や団体は育成できないと考える。スポーツを支える人材や団体の育成につながる協議会や審議会などに、常に経済団体出身の委員が参画できる仕組みをつくることで、経済団体のキーマンや会員企業の経営者層を巻き込む効果が期待できる。またその結果、イベントを開催する際も、後援・協賛を得やすくなり、役職員の動員にもつながると考える。
- 川崎会長 部活動の地域移行については、まだ国の指針が明確になっていない。今後動きがあった場合に向け、工夫のアイデアなどを考えておく必要はあると考える。
【基本目標3】について、何かご意見はあるか。
- 水野委員 パラスポーツの「する」環境について、全てのスポーツをユニバーサル的に行える機会をつくり、一般の種目とパラスポーツを分けて実施するという視点だけではなく、健常者と障がい者がクロスしたやり方やイベントを考えていくことも良いのではないかと。障がい者の中でも障がい者スポーツをやりたいという訳ではなく、例えば普通の体育の授業では見学になってしまう幅跳びをやってみたい、といった声も聞いたことがある。今まではポッチャなど特定のパラスポーツだったが、障がい者スポーツに特化しないでユニバーサル的に行うスポーツイベントもよいのではないかと。
- 川崎会長 インクルーシブなスポーツの取組など、事例はあるか。
- 水野委員 他の自治体で開催されたユニバーサルスポーツのイベントでは障害者の方も、健常者と一緒にやりたいという気持ちを持っているということを知った。車いすでも幅跳びをやってみたいなど、障がい者だけの括りではなく、健常者の子と一緒にやりたいという気持ちにこたえるイベントややり方を取り入れてみてはどうか、と思う。
- 永吉委員 他自治体の例で、小学校・中学校内でポッチャを積極的に取り組むという事例があった。各学校から代表が集まる大会も行われ、特別支援学校や日本のトップ選手チームも参加し、盛り上がりを見せていた。オリパラ教育、レガシー、障がい者スポーツという様々な側面を合わせて推進していたという事例だった。学生も審判のお手伝い等でボランティアとして参加していた。ポッチャに限ったことではないが、学校などと連携して取り

組むと多くの人を楽しめるスポーツというのがまだたくさんあると思う。

するスポーツのところでは、公園などに向かう道も重要なスポーツ環境だと考えられる。ウォーキングやジョギングする人向けに、公園 1 周の距離表示であったり、公園や施設間の距離表示が示してあるとよいのではないか。

また、ウォーキングやジョギングの際に、トイレに行きたくなくなることがあるため、トイレやベンチ、水飲み場などがどこにあるのかが重要になってくる。特に障がい者の方だと、だれでもトイレやベンチの場所、距離などが記載されているマップがあると活動を行いやすいと感じる。

川崎会長 スポーツ環境の充実として、町田市には何か足りないと感じることがあるか。

小八重委員 野津田公園に駐車場が少ないことは、1つの問題点であると思う。小さい子どもがいる方や高齢者がいる方は、特に不便だと思う。

川崎会長 パブリックビューイングというキーワードもあるかと思う。

永吉委員 ライブ配信が当たり前になってきている。全体の映像が録画できる施設、カメラの設置、Wi-Fi がつながることなどは、施設として魅力の 1 つになるのではないか。費用がかかるという面はあるが、防犯上もそういったカメラがあると良いと言われていることもある。

渋谷委員 町田市内でのスポーツ観戦を促進するために、早い段階で経済団体の参画を呼び掛けることが有効である。企業としては、地域スポーツ振興に貢献することをただの慈善活動にとどめることなく、総合的な魅力向上に資する取り組みとして捉えるべきである。そうした戦略的な関わりを継続することで、ヒト・モノ・カネ・情報を集め、ひいては競争力を高め企業価値を向上させるはずである。

川崎会長 【基本目標4】について、何かご意見はあるか。

川口委員 ラグビーワールドカップの時にナミビアのキャンプ地だったということもあり、大々的に掲示などがされていた。そういったことを引き続きやっていると良いと思うが、デジタルサイネージということも1つの候補として挙げられる。視覚に訴えかけていくことも効果的であると思う。

また、リーグの方針で町田から横浜に拠点が変わったキャノンイーグルスは、町田市から離れてしまったという印象だが、町田市内に練習場があるので関わりを持っていけると良いのではないか。

川崎会長 キャノンイーグルスとのつながりはどうであるか。

事務局 キャノンイーグルスとしては、これまでと変わらずタグラグビー教室や練習場見学等の地域貢献活動を引き続き行いたい意向であるとのことで、今後も連携した取組を行っていく予定である。

川崎会長 ジュニアのラグビースクールはあるのか。

事務局 キャノンイーグルスのジュニアラグビースクールというものはないが、小学生を対象とした大会などを市内練習場で開催している。

川崎会長 市が発信するスポーツ情報について、発信方法やシティプロモーションにつながる具体的な内容について、何かアイデアはあるか。

永吉委員 情報が加速度的に広まるようなものがないと、シティプロモーションというレベルにまで達しないと思う。SNSなどを活用して、若者の関心につながる、カッコいい・かわ

いい・スター選手・芸能人など、特徴があるきっかけのようなことを取り入れていく中で、シティプロモーションにつなげることができるとよい。

川崎会長 若者に意見を聞く、アイデアを出してもらおう企画などこれまではあるか。

事務局 直近としては、当てはまるような取組はない。

水野委員 公募などでアイデアを募集してみるということも考えられる。

川崎会長 町田市の上位計画では、シティプロモーションに関する取組は、重点事業になっているか。

事務局 シティプロモーション自体の重点事業はないが、住みよい街、住んでみたくなるような街づくりをすることで街全体をブランディングし、シティプロモーションにつなげるという考え方をとっていると思われる。

渋谷委員 経営者としてもこういった地域貢献やあるいはスポーツ振興について会社の本業と捉えて取り組んでいくことを求められる世の中になっているので、何かご要望やご提案をいただければ、商工会議所として受け止め、一緒に取り組んでいきたいと考えている。

川崎会長 イベントで人手が足りないときなど、商工会議所を含め経済界の力を借りたいときに、町田市の企業はどういう協力ができるのかということも、ぜひ具体的な事業に落とし込めると良い。

宮崎委員 するスポーツ環境の充実というところで、道路や公園における環境整備の話があったが、境川のところのマークなど、老朽化しているところは改めて整備を行うことも必要であると思う。市内には境川や恩田川沿いなど、ウォーキングやランニングなどをするのに適した場所が多数あるので、できるところから距離表示の設置などを始めていけると良い。また、町田サポーターズやスポーツ推進委員、学生、企業などと連携をしていく中で、町田市のスポーツ推進につながると良い。今年から本学ではフィールドワークを単位化した。地域の中で活動することは学生にとっても非常に重要なことと考えている。たくさんの学生がこの科目履修を希望している。学生が地域の方と触れ合い、市内の様々なスポーツイベントに参加できるような発展性があると考えている。

川崎会長 今回の意見を踏まえて、事務局で整理した内容をもとに次回の会議で議論をしていきたいと思う。

3. 事務局から

事務局から次回の日程について説明を行った。

4. 閉会

以上